

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/000780

International filing date: 21 January 2005 (21.01.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004-016282
Filing date: 23 January 2004 (23.01.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 17 March 2005 (17.03.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

10/586698

PCT/JP 2005/000780

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

26. 1. 2005

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 4 年 1 月 2 3 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 4 - 0 1 6 2 8 2
Application Number:

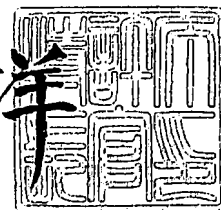
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 4 - 0 1 6 2 8 2]

出 願 人 大 王 製 紙 株 式 会 社
Applicant(s):

2 0 0 5 年 3 月 3 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川 洋



出証番号 出証特 2 0 0 5 - 3 0 1 7 5 9 4

【書類名】 特許願
【整理番号】 P03DP053
【提出日】 平成16年 1月23日
【あて先】 特許庁長官 殿
【国際特許分類】 A61F 13/46
A61F 13/15

【発明者】
【住所又は居所】 栃木県塩谷郡喜連川町鷲宿字菅ノ沢4776番4号 エリエール
ペーパーテック株式会社内
【氏名】 片山 善規

【発明者】
【住所又は居所】 栃木県塩谷郡喜連川町鷲宿字菅ノ沢4776番4号 エリエール
ペーパーテック株式会社内
【氏名】 石田 智昭

【特許出願人】
【識別番号】 390029148
【氏名又は名称】 大王製紙株式会社

【代理人】
【識別番号】 100090033
【弁理士】
【氏名又は名称】 荒船 博司

【選任した代理人】
【識別番号】 100093045
【弁理士】
【氏名又は名称】 荒船 良男

【手数料の表示】
【予納台帳番号】 027188
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1

【書類名】特許請求の範囲

【請求項 1】

人体との接触面側に設けられるトップシートと、人体との接触面と反対面側に設けられるバックシートと、前記トップシートと前記バックシートとの間に介装される吸収体とを備える吸収性物品において、

前記吸収体の長手方向の中央側は、当該吸収体の長手方向の両端部の幅より狭く形成されており、

前記バックシートの幅方向の端部は、それぞれ当該バックシートの内側へ折り返されて積層されるとともに、当該バックシートが折り返された折り返し部には、接着剤が塗布される接着剤塗布領域と、接着剤が塗布されない接着剤非塗布領域が形成され、

前記接着剤非塗布領域は、少なくとも前記吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する位置であって、前記折り返し部の折り返し起点部を含む位置に設けられていることを特徴とする吸収性物品。

【請求項 2】

前記接着剤非塗布領域は、前記バックシートの長手方向に亘って前記折り返し起点部を含んで帯状に設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の吸収性物品。

【請求項 3】

前記接着剤非塗布領域は、前記吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する位置であって、前記折り返し起点部から前記吸収体まで設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の吸収性物品。

【請求項 4】

前記接着剤非塗布領域は、前記吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する位置であって、前記折り返し起点部から前記吸収体の手前部分にまで設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の吸収性物品。

【請求項 5】

人体との接触面側に設けられるトップシートと、人体との接触面と反対面側に設けられるバックシートと、前記トップシートと前記バックシートとの間に介装される吸収体とを備えるインナー吸収性物品において、

前記吸収体の長手方向の中央側は、当該吸収体の長手方向の両端部の幅より狭く形成されており、

前記バックシートの幅方向の端部は、それぞれ当該バックシートの内側へ折り返されて積層されるとともに、当該バックシートが折り返された折り返し部には、接着剤が塗布される接着剤塗布領域と、接着剤が塗布されない接着剤非塗布領域が形成され、

前記接着剤非塗布領域は、少なくとも前記吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する位置であって、前記折り返し部の折り返し起点部を含む位置に設けられていることを特徴とするインナー吸収性物品。

【書類名】明細書

【発明の名称】吸収性物品及びインナー吸収性物品

【技術分野】

【0001】

本発明は、吸収性物品及びインナー吸収性物品に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、使い捨ての紙おむつや尿取りパッド、生理用ナプキン等の吸収性物品として、トップシートとバックシートの間に吸収体を介在させて成るものが知られている。そして、例えば、紙おむつを下腹部に着用することによって、失禁により排出された尿などの体液をその紙おむつに備えられた吸収体に吸収させることができる。

このような吸収性物品における吸収体が下腹部、特に股下部（そけい部）において人体にフィットしやすいように、吸収体の長手方向の中央側の幅を、細くくびれさせ、砂時計形状としたものが知られている（例えば、特許文献1参照。）。

【特許文献1】特開2003-265521号公報（第4図）

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

しかしながら、上記特許文献1の場合、吸収性物品5におけるトップシート6とバックシート7が吸収体8を覆う面の全面には、それぞれ接着剤層9が配されているので、図8に示すように、吸収体8のくびれた部分においてバックシート7が折り返されて重なった部分は、バックシート7同士が接着してしまうことになる。

このように、バックシート7同士が接着してしまった部分は、バックシート2枚分の厚みを有するとともに、そのバックシート7の間に接着剤層9が介在するため、比較的硬い状態になってしまうので、吸収体自体がくびれていても、硬くなってしまったバックシート7部分が人体に触れることとなり、吸収性物品5の装着感を損ねる場合があった。

【0004】

本発明の課題は、バックシートが折り返されて重なって接着される吸収性物品及びインナー吸収性物品において、装着感の向上を図ることである。

【課題を解決するための手段】

【0005】

以上の課題を解決するため、請求項1記載の発明は、

人体との接触面側に設けられるトップシート（例えば、トップシート10a）と、人体との接触面と反対面側に設けられるバックシート（例えば、バックシート10b）と、前記トップシートと前記バックシートとの間に介装される吸収体（例えば、吸収体12）とを備える吸収性物品（例えば、インナーパッド1）において、

前記吸収体の長手方向の中央側は、当該吸収体の長手方向の両端部の幅より狭く形成されており、

前記バックシートの幅方向の端部は、それぞれ当該バックシートの内側へ折り返されて積層されるとともに、当該バックシートが折り返された折り返し部（例えば、折り返し部100b）には、接着剤が塗布される接着剤塗布領域（例えば、接着剤層20）と、接着剤が塗布されない接着剤非塗布領域（例えば、接着剤非塗布領域21）が形成され、

前記接着剤非塗布領域は、少なくとも前記吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する位置であって、前記折り返し部の折り返し起点部（例えば、折曲部100）を含む位置に設けられていることを特徴とする。

【0006】

請求項1記載の発明によれば、吸収性物品において、バックシートの幅方向の端部は、それぞれ当該バックシートの内側へ折り返されて積層されており、そのバックシートの折り返し部に塗布された接着剤により接着されている。

そして、このバックシートが折り曲げられた折り返し起点部を含む位置であって、少な

くとも吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する位置は、接着剤を配しない接着剤非塗布領域となっているので、バックシートが折り曲げられた折り返し起点部は、断面視においてループ状に変形することができるようになっている。

つまり、吸収性物品を人体に装着する際に、吸収体を覆うバックシートの折り曲げられた端部である折り返し起点部における、特に人体に接触しやすい箇所（ここでは、吸収性物品における吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する箇所）においては、その折り返し起点部が人体との接触面積を広げるようにループ状に弾性変形するようになっているので、人体に対して柔らかく接触するようになり、吸収性物品の装着感が良好であるようにすることができる。

【0007】

また、トップシートとバックシートとの間に介装される吸収体は、その吸収体の長手方向の中央側が、当該吸収体の長手方向の両端部の幅より狭く形成されているので、砂時計様の形状を呈するようになっている。そして、吸収性物品を人体に装着する際に、その幅が狭くなっている吸収体の長手方向の中央側は、人体の股下部に対してフィットしやすくなっている。

【0008】

そして、吸収体は、トップシートとバックシートとにより覆われているが、吸収体の幅が狭く形成された部分においては、トップシートとバックシートの間には吸収体がないので、トップシートとバックシートのみの部分が人体に対して接触しやすくなっている。

ここで、吸収性物品を人体に装着し、吸収性物品における人体の股下部に相当する位置において、吸収体が人体にフィットする際に、吸収体を覆うバックシートの折り曲げられた端部である折り返し起点部は、断面視においてループ状に弾性変形し、人体に対して柔らかく接触することができるようになっているので、良好な装着感が得られる。

よって、このような吸収性物品は、装着感が良好な吸収性物品であるといえる。

【0009】

請求項2記載の発明は、請求項1に記載の吸収性物品において、

前記接着剤非塗布領域は、前記バックシートの長手方向に亘って前記折り返し起点部を含んで帯状に設けられていることを特徴とする。

【0010】

請求項2記載の発明によれば、請求項1に記載の発明と同様の作用を奏するとともに、接着剤非塗布領域は、バックシートの長手方向に亘って前記折り返し起点部を含んで帯状に設けられているので、吸収性物品を人体に装着する際に、吸収体を覆うバックシートの折り曲げられた端部である折り返し起点部は、人体との接触面積を広げるようにループ状に弾性変形するようになっており、人体に対して柔らかく接触するようになり、吸収性物品の装着感が良好であるようにすることができる。

【0011】

請求項3記載の発明は、請求項1に記載の吸収性物品において、

前記接着剤非塗布領域は、前記吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する位置であって、前記折り返し起点部から前記吸収体まで設けられていることを特徴とする。

【0012】

請求項3記載の発明によれば、請求項1に記載の発明と同様の作用を奏するとともに、接着剤非塗布領域は、吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する位置であって、折り返し起点部から吸収体まで設けられているので、吸収性物品を人体に装着する際に、吸収体を覆うバックシートの折り曲げられた端部である折り返し起点部は、人体との接触面積を広げるようにループ状に弾性変形するようになっており、人体に対して柔らかく接触するようになり、吸収性物品の装着感が良好であるようにすることができる。

【0013】

請求項4記載の発明は、請求項1に記載の吸収性物品において、

前記接着剤非塗布領域は、前記吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する位置であって、前記折り返し起点部から前記吸収体の手前部分にまで設けられていることを特徴とす

る。

【0014】

請求項4記載の発明によれば、請求項1に記載の発明と同様の作用を奏するとともに、接着剤非塗布領域は、吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する位置であって、折り返し起点部から吸収体の手前部分にまで設けられているので、吸収性物品を人体に装着する際に、吸収体を覆うバックシートの折り曲げられた端部である折り返し起点部は、人体との接触面積を広げるようにループ状に弾性変形するようになっており、人体に対して柔らかく接触するようになり、吸収性物品の装着感が良好であるようにすることができる。

【0015】

請求項5記載の発明は、

人体との接触面側に設けられるトップシート（例えば、トップシート10a）と、人体との接触面と反対面側に設けられるバックシート（例えば、バックシート10b）と、前記トップシートと前記バックシートとの間に介装される吸収体（例えば、吸収体12）とを備えるインナー吸収性物品（例えば、インナーパッド1）において、

前記吸収体の長手方向の中央側は、当該吸収体の長手方向の両端部の幅より狭く形成されており、

前記バックシートの幅方向の端部は、それぞれ当該バックシートの内側へ折り返されて積層されるとともに、当該バックシートが折り返された折り返し部（例えば、折り返し部100b）には、接着剤が塗布される接着剤塗布領域（例えば、接着剤層20）と、接着剤が塗布されない接着剤非塗布領域（例えば、接着剤非塗布領域21）が形成され、

前記接着剤非塗布領域は、少なくとも前記吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する位置であって、前記折り返し部の折り返し起点部（例えば、折曲部100）を含む位置に設けられていることを特徴とする。

【0016】

請求項5記載の発明によれば、インナー吸収性物品において、バックシートの幅方向の端部は、それぞれ当該バックシートの内側へ折り返されて積層されており、そのバックシートの折り返し部に塗布された接着剤により接着されている。

そして、このバックシートが折り曲げられた折り返し起点部を含む位置であって、少なくとも吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する位置は、接着剤を配しない接着剤非塗布領域となっているので、バックシートが折り曲げられた折り返し起点部は、断面視においてループ状に変形することができるようになっている。

つまり、インナー吸収性物品を人体に装着する際に、吸収体を覆うバックシートの折り曲げられた端部である折り返し起点部における、特に人体に接触しやすい箇所（ここでは、インナー吸収性物品における吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する箇所）においては、その折り返し起点部が人体との接触面積を広げるようにループ状に弾性変形するようになっているので、人体に対して柔らかく接触するようになり、インナー吸収性物品の装着感が良好であるようにすることができる。

【0017】

また、トップシートとバックシートとの間に介装される吸収体は、その吸収体の長手方向の中央側が、当該吸収体の長手方向の両端部の幅より狭く形成されているので、砂時計様の形状を呈するようになっている。そして、インナー吸収性物品を人体に装着する際に、その幅が狭くなっている吸収体の長手方向の中央側は、人体の股下部に対してフィットしやすくなっている。

【0018】

そして、吸収体は、トップシートとバックシートとにより覆われているが、吸収体の幅が狭く形成された部分においては、トップシートとバックシートの間には吸収体がないので、トップシートとバックシートのみの部分が人体に対して接触しやすくなっている。

ここで、インナー吸収性物品を人体に装着し、インナー吸収性物品における人体の股下部に相当する位置において、吸収体が人体にフィットする際に、吸収体を覆うバックシートの折り曲げられた端部である折り返し起点部は、断面視においてループ状に弾性変形し

、人体に対して柔らかく接触することができるようになっていて、良好な装着感が得られる。

よって、このようなインナー吸収性物品は、装着感が良好な吸収性物品であるといえる。

【発明の効果】

【0019】

請求項1記載の発明によれば、吸収性物品において、バックシートが折り曲げられた折り返し起点部を含む位置であって、少なくとも吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する位置は、接着剤を配しない接着剤非塗布領域になっており、その折り返し起点部は、断面視においてループ状に変形することができるようになっていて、吸収性物品の幅方向の端部が人体と接触する際には、折り返し起点部が人体との接触面積を広げるようにループ状に弾性変形することにより、人体に対して柔らかく接触するようになる。

また、トップシートとバックシートとの間に介装される吸収体は、その吸収体の長手方向の中央側が、当該吸収体の長手方向の両端部の幅より狭く形成されているので、吸収性物品を人体に装着する際に、その幅が狭くなっている吸収体の長手方向の中央側は、人体の股下部に対してフィットしやすくなっている。

そして、吸収性物品を人体に装着し、吸収性物品における人体の股下部に相当する位置において、吸収体が人体にフィットする際に、吸収体を覆うバックシートの折り曲げられた端部である折り返し起点部は、断面視においてループ状に弾性変形し、人体に対して柔らかく接触することができるようになっていて、良好な装着感が得られる。

よって、このような吸収性物品は、装着感が良好な吸収性物品であるといえる。

【0020】

請求項2、請求項3、請求項4記載の発明によれば、吸収性物品を人体に装着する際に、吸収体を覆うバックシートの折り曲げられた端部である折り返し起点部は、人体との接触面積を広げるようにループ状に弾性変形するようになっていて、人体に対して柔らかく接触するようになり、吸収性物品の装着感が良好であるようにすることができる。

【0021】

請求項5記載の発明によれば、インナー吸収性物品において、バックシートが折り曲げられた折り返し起点部を含む位置であって、少なくとも吸収体の幅が狭く形成された部分に対応する位置は、接着剤を配しない接着剤非塗布領域になっており、その折り返し起点部は、断面視においてループ状に変形することができるようになっていて、インナー吸収性物品の幅方向の端部が人体と接触する際には、折り返し起点部が人体との接触面積を広げるようにループ状に弾性変形することにより、人体に対して柔らかく接触するようになる。

また、トップシートとバックシートとの間に介装される吸収体は、その吸収体の長手方向の中央側が、当該吸収体の長手方向の両端部の幅より狭く形成されているので、インナー吸収性物品を人体に装着する際に、その幅が狭くなっている吸収体の長手方向の中央側は、人体の股下部に対してフィットしやすくなっている。

そして、インナー吸収性物品を人体に装着し、インナー吸収性物品における人体の股下部に相当する位置において、吸収体が人体にフィットする際に、吸収体を覆うバックシートの折り曲げられた端部である折り返し起点部は、断面視においてループ状に弾性変形し、人体に対して柔らかく接触することができるようになっていて、良好な装着感が得られる。

よって、このようなインナー吸収性物品は、装着感が良好なインナー吸収性物品であるといえる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0022】

以下、本発明の実施の形態を図1から図7に基づいて説明する。

本実施の形態では、吸収性物品として、使い捨て紙おむつの内部に備えて使用するインナーパッドを一例として説明する。特にインナー吸収性物品とは、そのインナーパッドの

ように、使い捨て紙おむつ等の内部に備えて使用する吸収性物品のことである。

図1は、本実施の形態におけるインナーパッドを展開した斜視図である。また、図2は、同インナーパッドの平面図であり、図3は、図2のIII-III線における断面図である。

図1～図3に示すように、吸収性物品であるインナーパッド1は、インナーパッド本体10と、左右一對のギャザーシート11、11等により構成されている。

【0023】

インナーパッド本体10は、人体との接触面側に設けられ、尿などの体液を速やかに透過させる透液性のトップシート10aと、人体との接触面と反対側に設けられる、不透液性のバックシート10bと、これらバックシート10bとトップシート10aとの間に介装される吸収体12等により構成されている。

また、このインナーパッド本体10においては、人体の股部を腹側から背側にかけて覆うように、一方の端部に腹側部14が形成され、他方の端部に背側部15が形成されている。また、腹側部14と背側部15との間が股下部16となっている。

【0024】

トップシート10aは、有孔または無孔の不織布や、多孔性プラスチックシートなどにより形成されている。不織布を構成する素材繊維としては、ポリエチレンまたはポリプロピレン等のオレフィン系、ポリエステル系、ポリアミド系等の合成繊維の他、レーヨンやキュプラ等の再生繊維、綿等の天然繊維を用いることができる。また、不織布を製造する方法としては、公知の方法を適宜用いることができ、例えば、スパンレース法、スパンボンド法、サーマルボンド法、メルトブロー法、ニードルパンチ法、或いはこれらを組み合わせた方法等によって不織布を製造することができる。

トップシート10aに多数の透孔を形成した場合には、体液がより速やかに吸収されるようになり、ドライタッチ性に優れたものとなる。

【0025】

バックシート10bは、ポリエチレン等の少なくとも遮水性を有するシート材により形成されている。また、ムレ防止の観点から透湿性を有するシート材であることが好ましく、この遮水性と透湿性とを具備するシート材としては、ポリエチレンやポリプロピレン等のオレフィン系樹脂中に無機充填剤を熔融混練してシートを成形した後、一軸または二軸方向に延伸することにより得られる微多孔性シート材が好適に用いられる。

【0026】

図3に示されるように、このバックシート10bの幅方向の端部は、それぞれバックシート10bの内側へ向けて折り返されて、トップシート10aを挟み込むようになっている。そして、バックシート10bが折り返される折り返し部100bに、ホットメルトなどの接着剤からなる接着剤層20が接着剤塗布領域として備えられており、折り返されて積層されたバックシート10b同士を接着している。

なお、バックシート10bの幅方向の端部は、それぞれトップシート10aと反対面側の裏面側へ折り返してもよい。

【0027】

ここで、バックシート10bの折り返し部100bにおける、バックシート10bが折り曲げられた折り返し起点部である折曲部100を含む帯状の領域には、接着剤を配しない接着剤非塗布領域21を形成し、折曲部100においては、バックシート10b同士が接着しないようになっている。

なお、接着剤層20は、図2に示すように、バックシート10bの折曲部100に配しないように、インナーパッド本体10の腹側部14から背側部15に亘って備えられている。

【0028】

吸収体12は、インナーパッド1の使用時に、体液としての尿等の水様成分を吸収するものであり、綿やパルプ等の吸収性素材や、高吸水性樹脂(SAP; Super Absorbent Polymer)や、繊維或いはフィルム等のシート状基材とを組み合わせ形成される。

吸収体12は、インナーパッド本体10の腹側部14側から背側部15側に亘る長さに

形成され、この吸収体 12 の長手方向の中央側は、吸収体 12 の両端部の幅より狭く形成されている。つまり、吸収体 12 の略中央部である股下部 16 に相当する部分は、吸収体 12 の両端部である腹側部 14 や背側部 15 に相当する部分より、幅が狭く形成されて、砂時計様の形状を呈している。

このように、吸収体 12 の略中央部である股下部 16 に相当する部分の幅を、その長手方向の両端部に比べて狭く形成することにより、インナーパッド 1 (インナーパッド本体 10) を人体に装着した際に、人体の股下部 (そけい部) において、吸収体 12 が人体にフィットしやすくなっている。

【0029】

ギャザーシート 11, 11 は、インナーパッド本体 10 におけるトップシート 10 a 側に折り返されたバックシート 10 b に、腹側部 14 から背側部 15 に亘って備えられている。このギャザーシート 11, 11 は、不透液性のシートを二つ折りにし、折り合わされた面を、例えば、ホットメルトやヒートシール等により固着させることにより形成されている。ギャザーシート 11 において、その不透液性のシートを二つ折りにした折り返し部分側の端部を自由端部 11 a、バックシート 10 b に固定される端部を固定端部 11 b とする。

このギャザーシート 11 の自由端部 11 a には、ギャザーシート 11 の長手方向に沿って、複数の糸ゴム、ポリウレタン繊維等の弾性部材 18 が略平行に備えられている。このギャザーシート 11, 11 がインナーパッド本体 10 に固定された状態において、自由端部 11 a がインナーパッド本体 10 から立設することにより、立体ギャザーが形成される。そして、この弾性部材 18 により立体ギャザーは、着用者の体型に合わせて伸縮自在に変形し、着用者にフィットしやすい構造となっている。

なお、ギャザーシート 11 の固定端部 11 b は、バックシート 10 b が折り返された折り返し部 100 b において、トップシート 10 a 側と反対側の面に固定されている。

【0030】

このように、インナーパッド本体 10 の幅方向の縁部において、トップシート 10 a 側の面に立設するギャザーシート 11, 11 が設けられているので、排出された体液のうち、トップシート 10 a から吸収体 12 に吸収されきれず、インナーパッド本体 10 の幅方向の縁部側へ流出した体液がギャザーシート 11 により一度止められ、長手方向にその流れを拡散するなどし、吸収体 12 へ吸収させることにより、体液の横漏れを防ぐ効果が期待できる。

特に、ギャザーシート 11 は、バックシート 10 b がトップシート 10 a 側に折り返された折り返し部 100 b に固定されているので、ギャザーシート 11 とともにバックシート 10 b が体液を塞ぎ止めることができることとなり、より体液の横漏れを防ぐことができるようになっている。

【0031】

次に、本発明のインナーパッド 1 におけるバックシート 10 b において、バックシート 10 b の折り返し部 100 b が折り返されて積層された部分を接着する接着剤層 20 を、バックシート 10 b が折り曲げられた折曲部 100 には備えないように接着剤非塗布領域 21 を設け、折曲部 100 の端部側ではバックシート 10 b 同士を接着しないようにした効果について説明する。

【0032】

インナーパッド 1 を使用するため、インナーパッド 1 を人体に装着する場合、インナーパッド 1 の股下部 16 における幅方向の端部が、人体のそけい部 (足の付け根) に対して当接するようになる。

この際、図 4 (a) に示されるように、バックシート 10 b が折り返された折り返し部の折曲部 100 に対し、図中矢印の向きに力が作用する。

このように折曲部 100 に力が作用すると、図 4 (b) に示されるように、バックシート 10 b 同士が接着していない折曲部 100 は、断面視においてループ状に広がるようになる。それにより、インナーパッド 1 の股下部 16 において、人体と接触する端部である

折曲部 100 が丸みを帯びるとともに、人体との接触面積を広げるようになる。つまり、その断面視においてループ状となった折曲部 100 (バックシート 10b) が弾性変形することにより、人体に対して柔らかく接触するようになる。

【0033】

このように、インナーパッド 1 を人体に装着する際、インナーパッド 1 の股下部 16 において人体と接触する端部 (折曲部 100) が、その断面視においてループ状に弾性変形することにより、人体に対して柔らかく接触するようになるので、上記のような折曲部 100 を有するインナーパッド 1 は、装着感が良好なインナーパッドとすることができる。

特に、インナーパッド 1 の吸収体 12 の股下部 16 に相当する部分の幅を、その長手方向の両端部に比べて狭く形成することにより、人体の股下部 (そけい部) に対してフィットしやすい形状としているので、より良好な装着感が得られる。

【0034】

なお、インナーパッド 1 の股下部 16 において人体と接触する端部である折曲部 100 が、その断面視においてループ状に弾性変形するようにするための接着剤の備え方は上記の図 2 のような形態に限るものではなく、バックシート 10b が折り曲げられた折曲部 100 における、吸収体 12 の幅が狭く形成された部分に対応する箇所に、接着剤を備えないようにすればよい。

【0035】

例えば、図 5 に示すように、インナーパッド 1a における、バックシート 10b の幅方向の端部を折り返して積層した部分 (折り返し部 100b) で、そのバックシート 10b 同士を接着するための接着剤を、インナーパッド本体 10 の腹側部 14 と背側部 15 に相当する位置においては、積層されて重なったバックシート 10b の全面に備えるとともに、吸収体 12 の幅が狭く形成された部分である股下部 16 に対応する位置においてはバックシート 10b の折曲部 100 に配しないように、腹側部 14 から背側部 15 に亘って直線的に備えるような接着剤塗布領域としての接着剤層 20a を設けるとともに、接着剤非塗布領域 21a を設けるようにしてもよい。

【0036】

また、図 6 に示すように、インナーパッド 1b における、バックシート 10b の幅方向の端部 100b を折り返して積層した部分 (折り返し部 100b) で、そのバックシート 10b 同士を接着するための接着剤を、インナーパッド本体 10 の腹側部 14 と背側部 15 に相当する位置においてのみ、積層されて重なったバックシート 10b の全面に備えるような接着剤塗布領域としての接着剤層 20b を設けるとともに、接着剤非塗布領域 21b を設けるようにしてもよい。

【0037】

また、図 7 に示すように、インナーパッド 1c における、バックシート 10b の幅方向の端部 100b を折り返して積層した部分 (折り返し部 100b) で、そのバックシート 10b 同士を接着するための接着剤を、インナーパッド本体 10 の腹側部 14 と背側部 15 に相当する位置においては、積層されて重なったバックシート 10b の全面に備えるとともに、吸収体 12 の幅が狭く形成された部分である股下部 16 に対応する位置においてはバックシート 10b の折曲部 100 に配しないように、腹側部 14 から背側部 15 に亘って、その折り返し起点部 100 から内側に湾曲するように備えるような接着剤塗布領域としての接着剤層 20c を設けるとともに、接着剤非塗布領域 21c を設けるようにしてもよい。

【0038】

なお、以上の実施の形態においては、吸収性物品としてインナーパッドを例に説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、本発明のインナーパッドの構成を、吸収性物品である紙おむつや紙パンツ、生理用ナプキンなどに適用してもよい。

【0039】

また、バックシート 10b は透液性であってもよい。

【0040】

また、その他、具体的な細部構造等についても適宜に変更可能であることは勿論である。

【図面の簡単な説明】

【0041】

【図1】本発明にかかるインナーパッドの斜視図である。

【図2】本発明にかかるインナーパッドの平面図である。

【図3】図2のIII-III線における断面図である。

【図4】図3のIV部分の拡大図(a)と、その部分が変形する際の説明図(b)である。

【図5】本発明にかかるインナーパッドの変形例を示す平面図である。

【図6】本発明にかかるインナーパッドの変形例を示す平面図である。

【図7】本発明にかかるインナーパッドの変形例を示す平面図である。

【図8】従来のインナーパッドの断面図である。

【符号の説明】

【0042】

1 インナーパッド(吸収性物品、インナー吸収性物品)

10 インナーパッド本体

10a トップシート

10b バックシート

100b 折り返し部

100 折曲部(折り返し起点部)

11 ギャザーシート

11a 自由端部

11b 固定端部

12 吸収体

14 腹側部

15 背側部

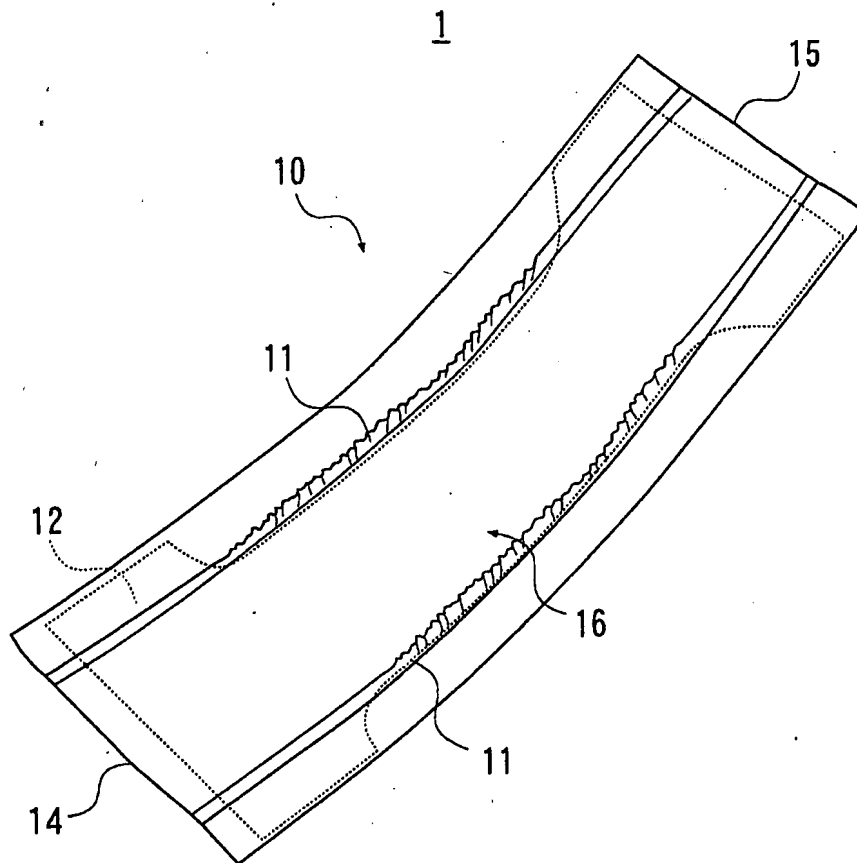
16 股下部

18 弾性部材

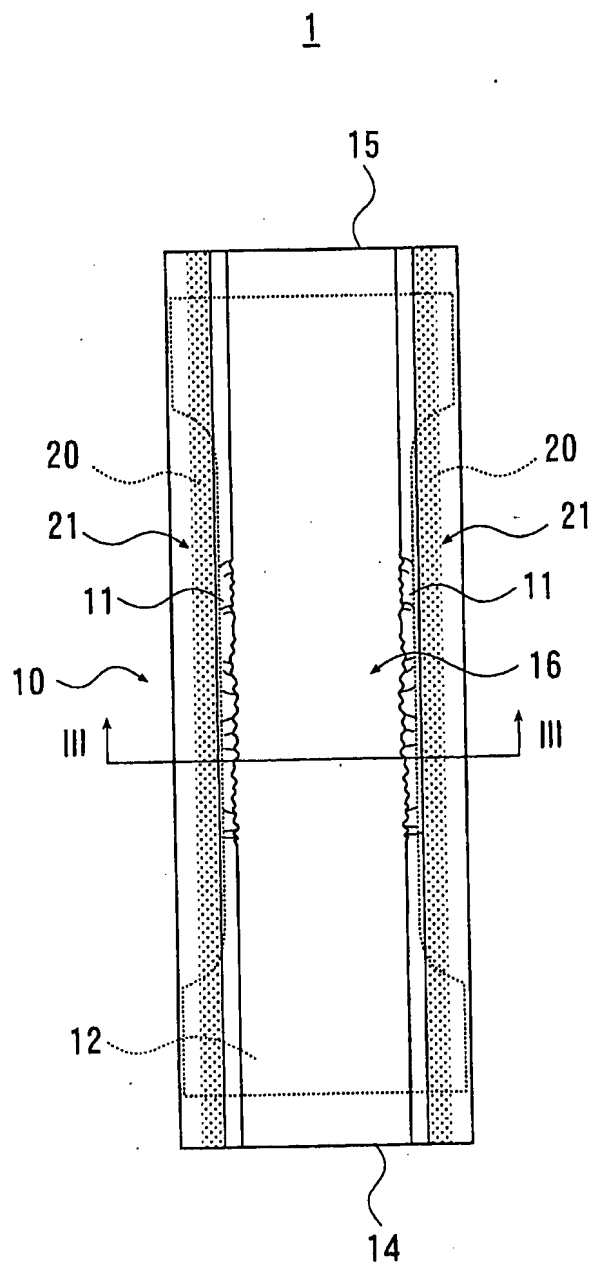
20、20a、20b、20c 接着剤層(接着剤塗布領域)

21、21a、21b、21c 接着剤非塗布領域

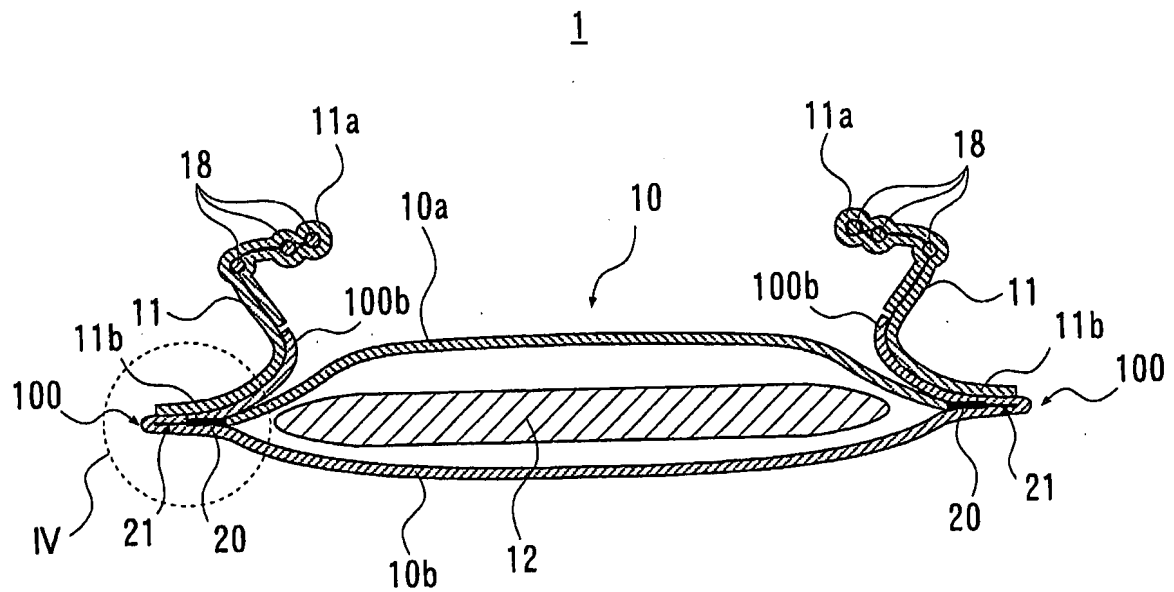
【書類名】図面
【図 1】



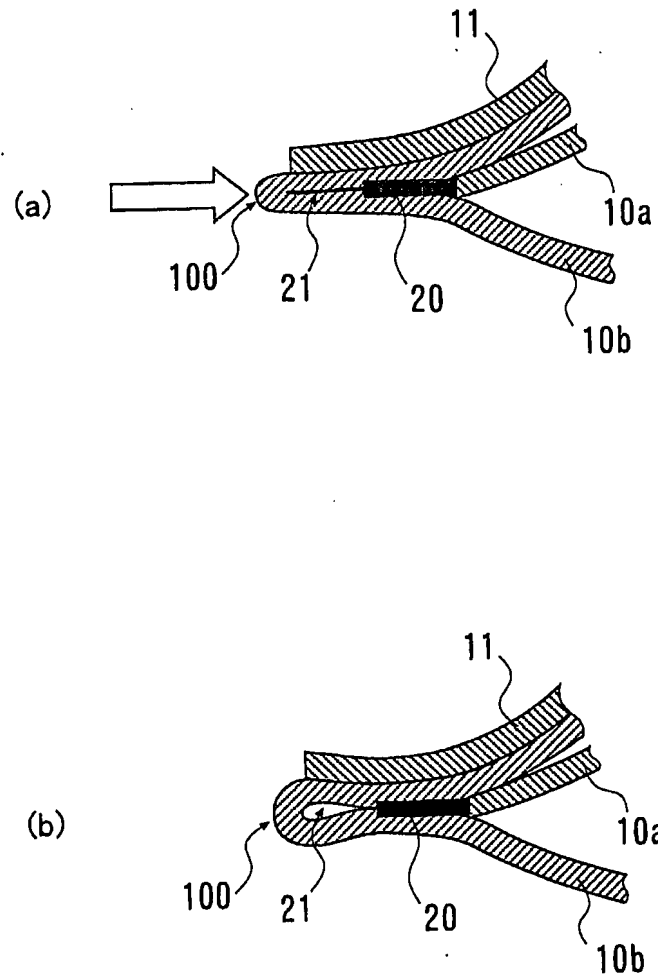
【図 2】



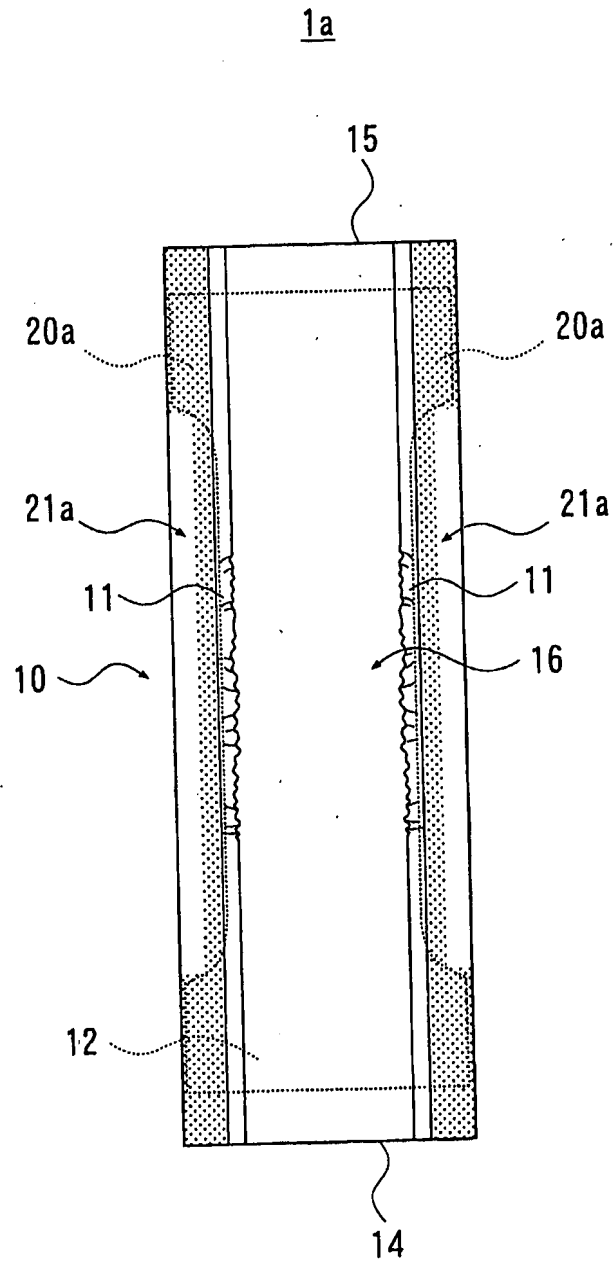
【図 3】



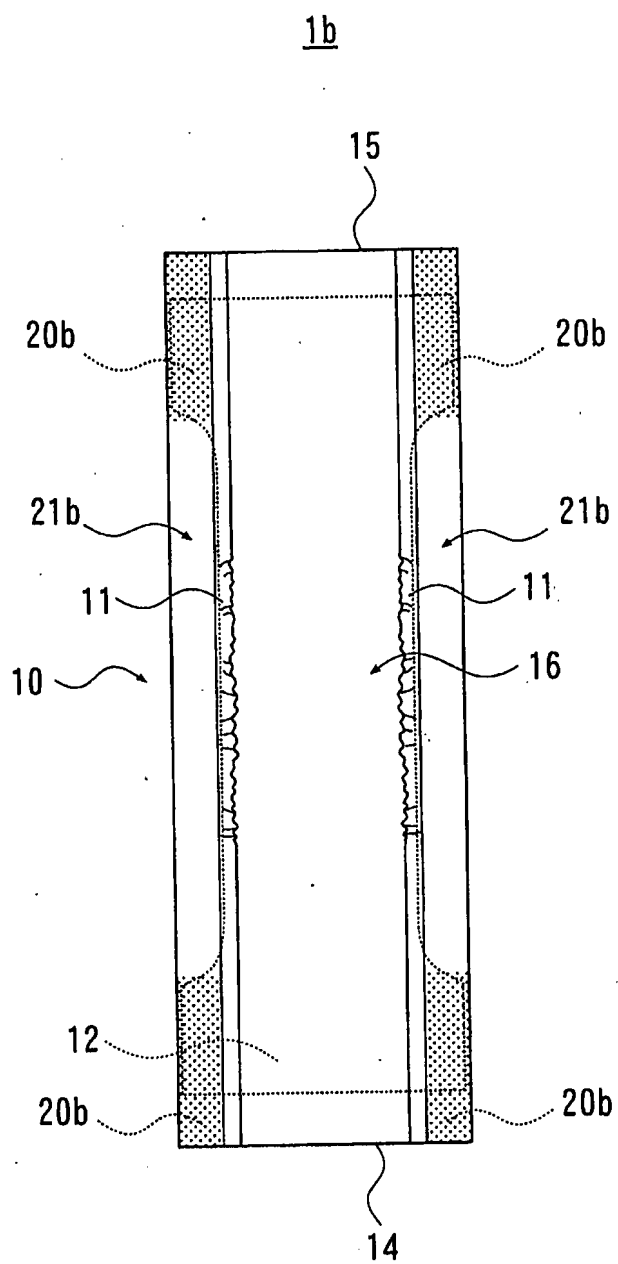
【図 4】



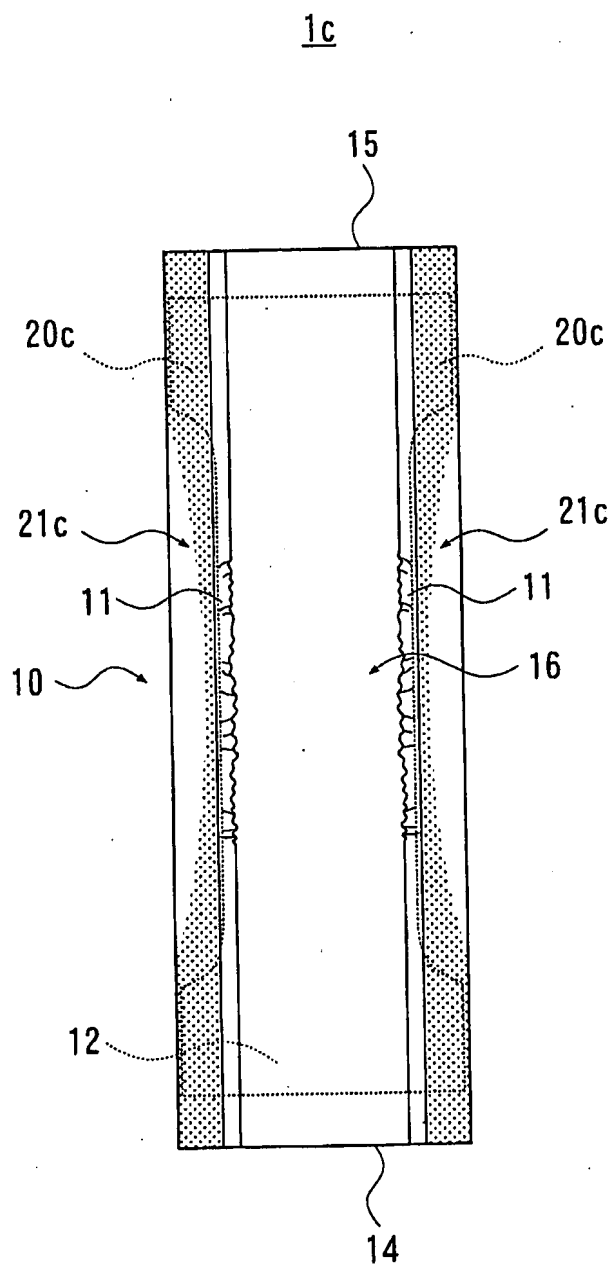
【図 5】



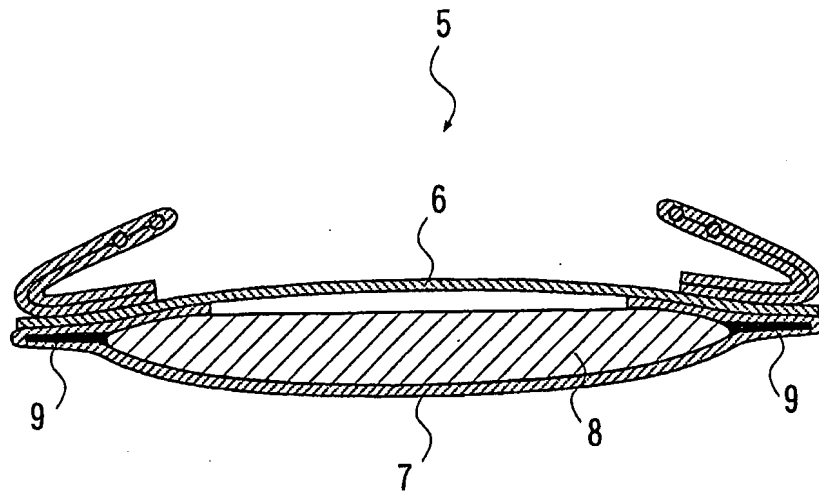
【図6】



【図 7】



【図 8】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】バックシートが折り返されて重なって接着される吸収性物品及びインナー吸収性物品において、装着感の向上を実現すること。

【解決手段】 インナーパッド(1)における、トップシート(10a)とバックシート(10b)との間に介装される吸収体(12)の長手方向の中央側を、その吸収体の長手方向の両端部の幅より狭く形成することにより、人体の股下部に対してフィットしやすくするとともに、バックシートの幅方向の端部を、バックシートの内側へ折り返して積層し、その積層したバックシート同士を接着剤からなる接着剤層(20)により接着する際に、バックシートが折り曲げられた折曲部(100)は、接着剤を配しない接着剤非塗布領域として、その折曲部が断面視においてループ状に弾性変形することができるようにすることにより、インナーパッドの装着感を向上させるようにした。

【選択図】図3

特願 2004-016282

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[390029148]

- | | |
|----------|--------------------|
| 1. 変更年月日 | 1990年11月27日 |
| [変更理由] | 新規登録 |
| 住 所 | 愛媛県伊予三島市紙屋町2番60号 |
| 氏 名 | 大王製紙株式会社 |
| 2. 変更年月日 | 2004年 4月22日 |
| [変更理由] | 住所変更 |
| 住 所 | 愛媛県四国中央市三島紙屋町2番60号 |
| 氏 名 | 大王製紙株式会社 |